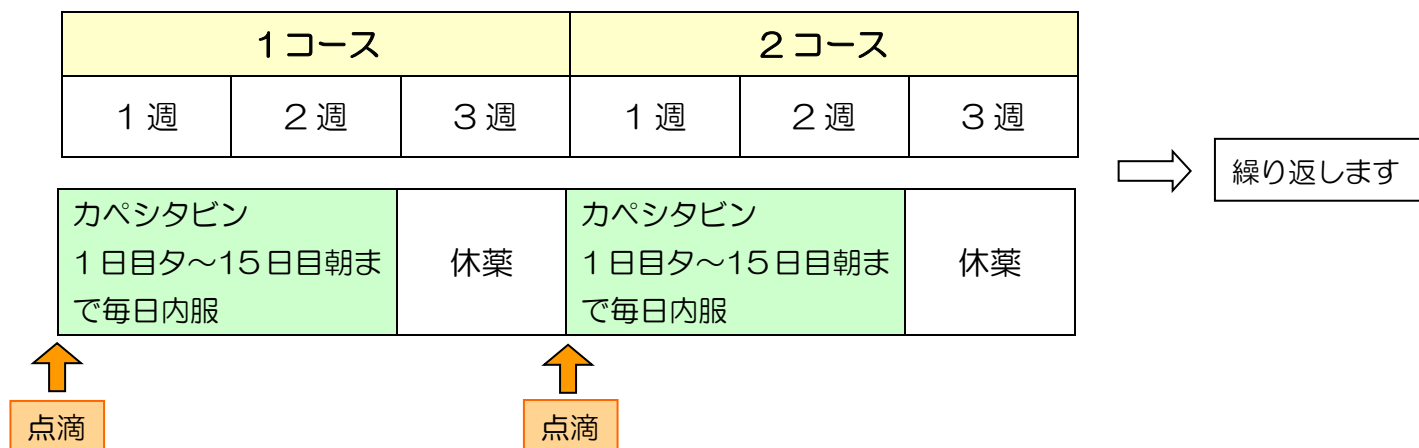


カペシタビン/ベバシズマブ療法について

1. 治療のながれ

治療スケジュール


通常「3週間」を一区切り（1コース）として治療します。



副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。

点滴スケジュール

点滴時間「約 30 分～90 分」 ※体調に応じて長くなることがあります。

	薬品名	点滴時間	薬効
	生食 100ml +ベバシズマブ	90分 ～ 30分	腫瘍へ栄養や酸素を補給する血管が作られるのを抑え、併用している抗腫瘍剤の効果を高める薬剤です 点滴時間は初回が 90 分、異常がなければ 60 分、30 分と短縮することができます。

血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。
この他にも輸液等を使用することがあります。

2. カペシタビン錠を服用するときの注意点

- ① 服薬期間と休薬期間を必ず守ってください。
- ② **1日2回朝食後と夕食後それぞれ30分以内**に、水またはぬるま湯と一緒に服用してください。
- ③ 飲み忘れて30分以上経った場合は、飲み忘れた分を服用せず、次から1回分のみを服用してください。**絶対に2回分を一度に飲まないでください。**
- ④ 専用の服薬記録手帳に服薬状況を記録し、飲み間違いのないように心がけてください。

絶対に一緒に飲んではいけな薬：ティーエスワンカプセル

3. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。

▼ 「自分でわかる症状」




副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
吐き気・嘔吐・食欲不振 投与直後から 7 日目頃 	<ul style="list-style-type: none"> 投与後すぐに起こる場合。 投与翌日から 1 週間ぐらいの間に起こる場合。 投与前から起こる場合。 食事のにおいなどで起こる場合。 これ以外でも変わったことがあった場合は報告してください。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
下痢 投与直後から 7 日目頃 	普段から便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛や、下痢でトイレの回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 下痢止めや水分補給のための点滴を使用します。
便秘 投与直後から 7 日目頃	便を軟らかくする薬や腸の動きをよくする薬を使用します。 また症状に応じて、坐薬や浣腸を使用することがあります。
口内炎・歯肉炎 投与後 7 日から 14 日目頃 	口の中を清潔に保つように心がけてください。 刺激の強いものや極端に熱いものはなるべく避けてください。 痛みで歯磨きができない場合でも、うがいはしてください。 症状が出現時は、軟膏やうがい薬を使用します。
アレルギー反応 (インフュージョンリアクション) 	薬剤投与中、投与後に起こることがあります。 発疹、悪寒、発熱、呼吸苦、めまいなどの症状が出現することがあります。 症状が出現時は、ステロイド剤と抗アレルギー剤で対応します。
疲労感・倦怠感・発熱 投与後 2 日から 3 日目頃	無理をせず、十分な休息とるようにしてください。 肝機能が影響して症状が出現する事があります。 発熱の症状に応じて解熱剤を使います。 
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。
手足症候群 ・手足のヒリヒリ・チクチク ・皮膚が水疱や赤く腫れる ・足裏のかさかさやひび割れ ・皮膚の痛み ・色素沈着	保湿をするように心がけてください。 日光をなるべく避けるようにしてください。 手足への刺激（温めすぎ、締め付けのきつい衣服、長時間同じ体勢でいるなど）は避けてください。 症状に応じて飲み薬や塗り薬などを使用します。 

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
<p>高血圧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我慢できない頭痛や吐き気 ・意識がもうろうとする 	<p>治療として一般的な降圧薬による治療が行われます。急激に血圧が上昇すると意識を失ったりすることがあるため、治療期間中は定期的に血圧測定してください。安静時に測定した血圧で最大血圧が180mmhgもしくは最小血圧が120mmhgを超える場合も連絡してください。</p>
<p>粘膜からの出血</p>	<p>主に鼻血、歯肉などから軽度の出血、血便がみられます。これらの出血は通常軽く、たいていは、自然にとまります。出血が止まらない時、血便だったときはお知らせください。</p>
<p>たん白尿</p>	<p>高血圧の方に出現しやすい傾向があります。治療期間中は、定期的に尿タンパクを測定します。</p>
<p>血栓 (心筋梗塞、脳梗塞、狭心症など)</p>	<p>胸が痛む、胸がしめつけられる、意識を失いそうになる、ろれつがまわらなくなる、激しいめまいがする、突然息切れがするなど 症状がみられた時は、すぐに連絡してください。</p>

▼「検査でわかる症状」



定期的に検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
<p>白血球・好中球減少</p> 	<p>感染症にかかりやすくなります。感染予防を心がけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時に手洗い、うがいを行う。 ・歯みがきは口の中を傷つけないように気をつける。 ・風邪など感染症にかかっている人に近付かない。 <p>風邪などの症状がある場合は早めに受診するようにしてください。 減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。</p> 
<p>赤血球減少</p> 	<p>めまい、倦怠感、息切れなど貧血時に見られる症状が出現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。 ・減少の程度では、輸血することがあります。
<p>血小板減少</p> 	<p>出血しやすくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我や内出血（打ち身などによる）に注意してください ・覚えのない内出血や血便が見られたときは報告してください ・減少の程度に応じて輸血することがあります
<p>腎機能 肝機能 電解質 などの項目も問題ないか確認していきます</p>	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。



鹿児島市医師会病院 化学療法委員会
099-254-1125